

第2期千葉県循環器病対策 推進計画の進捗状況について (令和6年度分)

令和7年9月
千葉県健康福祉部

1. 趣旨

- 本計画を効果的かつ着実に推進するため、施策が目標達成に至るまでを体系的に図式化したロジックモデルを活用して、進捗状況の評価を行います。
- 本計画では、次の項目について、それぞれ最終目標（千葉県の目指す姿）、中間目標（取組の方向性）及び初期目標（取組の結果）を設定しています。
 - ・「循環器病の予防・正しい知識の普及啓発」
 - ・「保健医療及び福祉に係るサービスの提供（脳卒中）」
 - ・「保健医療及び福祉に係るサービスの提供（心血管疾患）」
 - ・「救急搬送」
- このたび、令和6年度における本計画の進捗状況を取りまとめましたので、御確認いただくとともに、更なる取組の充実を図るために御意見等があればお願いします。

2. 進捗状況

評価方法

指標ごとに目標を設定しており、計画策定時の値よりも直近の値が目標に近づいていれば「改善傾向」、遠ざかっていれば「悪化傾向」、計画策定時と変わっていなければ「変化なし」、計画策定時以降新たなデータが出ていなければ「数値未確定」と評価しています。

なお、トレンドが不明な指標については、「モニタリング指標」として設定していますが、目標を定めていないため、評価を行いません。

□ 個々の評価指標、目標及び達成状況については、資料1－2 第2期千葉県循環器病対策推進計画ロジックモデルでお示ししていますので、詳細はそちらを御確認ください。

なお、令和6年度以降の直近の値を把握できない指標については、参考として、把握可能な直近の数値と、計画策定時の値と比較した結果のそれぞれについて、カッコ書きで記載しています。

3. 評価

項目1 循環器病の予防・正しい知識の普及啓発

- 最終目標の指標として設定した「健康寿命（男性）」、「同（女性）」、「受療率（人口10万人対）（脳血管疾患（脳卒中を含む））」、「受療率（人口10万人対）（心疾患（高血圧性のものを除く））」の直近の数値は第2期計画開始以前のものであり、現時点で第2期計画の進捗を評価することは困難です。
- 一方、初期目標や中間目標の指標のうち、令和6年度の状況を把握できた15指標は、9指標が改善傾向、2指標が変化なし、4指標が悪化傾向にありました。
「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合（男性）」「同（女性）」は特に悪化しており、引き続き、アルコールによる健康障害の発生を予防するための周知啓発活動に取り組む必要があります。
- このほか、数値未確定あるいは直近の数値が第2期計画開始以前の指標が多いことから、最新の状況把握に努めるとともに、引き続き、状況を注視しつつ、取組を進めていく必要があります。

3. 評価

項目2 保健医療及び福祉に係るサービスの提供（脳卒中）

（1）脳卒中による死亡が減少される

- 最終目標の指標として設定した「健康寿命（男性）」、「同（女性）」の直近の数値は第2期計画開始以前のものであり、現時点で第2期計画の進捗を評価することは困難です。
- 一方、中間目標の指標のうち、令和6年度の状況を把握できた「重症患者回復率」「回復期リハビリテーション病棟における実績指数」は、いずれも改善していました。取組の一定の進展がうかがえます。
- 数値が未確定な最終目標の指標や令和6年度の状況が把握できていないモニタリング指標が多いことから、最新の状況把握に努めるとともに、引き続き状況を注視しつつ、取組を進めていく必要があります。

3. 評価

項目2 保健医療及び福祉に係るサービスの提供（脳卒中）

（2）脳卒中を発症後も健やかに地域で暮らせる

- 最終目標の指標として設定した「在宅等の生活の場に復帰した脳血管疾患患者の割合」は数値が未確定であり、現時点で第2期計画の進捗を評価することは困難です。
- 中間目標及び初期目標の指標として設定した指標のうち、令和6年度の状況を把握できた「重症患者回復率」「回復期リハビリテーション病棟における実績指数」「機能強化型訪問看護ステーション数」「在宅医療・介護連携の推進に取り組む市町村の研修参加者数」「在宅療養後方支援病院数」については、いずれも改善していました。取組の一定の進展がうかがえます。
- 数値が未確定な最終目標の指標や直近の数値が第2期計画開始以前の指標が多いことから、最新の状況把握に努めるとともに、引き続き状況を注視しつつ、取組を進めていく必要があります。

3. 評価

項目3 保健医療及び福祉に係るサービスの提供（心血管疾患）

（１）心血管疾患による死亡が減少している

- 最終目標の指標として設定した「健康寿命（男性）」、「同（女性）」の直近の数値は第２期計画開始以前のものであり、現時点で第２期計画の進捗を評価することは困難です。
- 中間目標及び初期目標のモニタリング指標として設定した10指標のうち、令和６年度以降の状況が把握できた「心大血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)～(Ⅱ)届出医療機関数」「回復期リハビリテーション病棟において心大血管疾患リハビリテーションを提供した医療機関数」は、いずれも増加していました。取組の一定の進展がうかがえます。
- 数値が未確定な最終目標の指標や令和６年度の状況が把握できていないモニタリング指標が多いことから、最新の状況把握に努めるとともに、引き続き状況を注視しつつ、取組を進めていく必要があります。

3. 評価

項目3 保健医療及び福祉に係るサービスの提供（心血管疾患）

（２）心血管疾患を発症後も健やかに地域で暮らせる

- 最終目標の指標として設定した「在宅等の生活の場に復帰した虚血性心疾患患者の割合」は数値が未確定であり、現時点で第２期計画の進捗を評価することは困難です。
- 中間目標及び初期目標の指標として設定した指標のうち、令和６年度の状態を把握できた「機能強化型訪問看護ステーション数」「在宅医療・介護連携の推進に取り組む市町村の研修参加者数」「在宅療養後方支援病院数」については、いずれも改善していました。取組の一定の進展がうかがえます。
- 数値が未確定な最終目標の指標や直近の数値が第２期計画開始以前の指標が多いことから、最新の状況把握に努めるとともに、引き続き状況を注視しつつ、取組を進めていく必要があります。

3. 評価

項目4 救急搬送

(1) 全救急搬送時間の短縮（脳卒中関係）

- 最終目標の指標として設定した「脳血管疾患に係る救急活動時間（救急隊覚知～病院収容）」の直近の数値は第2期計画開始以前のものであり、現時点で第2期計画の進捗を評価することは困難です。
- 中間目標及び初期目標の指標として設定した指標について、改善傾向がみられた「循環器病啓発に係る県HPアクセス数の増加」以外の4指標は、第2期計画開始以降の状況を、まだ把握できていません。
- 第2期計画開始以前の数値とはいえ、最終目標の指標をはじめ多くの指標が悪化傾向にあることを踏まえ、最新の状況把握に努めるとともに、引き続き、救急医療体制の整備や搬送時間の短縮等に向けた取組をしっかりと進めていく必要があります。

3. 評価

項目4 救急搬送

(2) 全救急搬送時間の短縮（心血管疾患関係）

- 最終目標の指標として設定した「心血管疾患に係る救急活動時間（救急隊覚知～病院収容）」の直近の数値は第2期計画開始以前のものであり、現時点で第2期計画の進捗を評価することは困難です。
- 中間目標及び初期目標の指標として設定した5つの指標については、数値未確定あるいは直近の数値が第2期計画開始以前のものであります。
- 第2期計画開始以前の数値とはいえ、最終目標等が悪化傾向にあることを踏まえ、最新の状況把握に努めるとともに、引き続き、救急医療体制の整備や搬送時間の短縮等に向けた取組をしっかりと進めていく必要があります。